

全国学力・学習状況調査を活用した

授業づくり参考資料

【中学校】



掲載事例

【国語】

- ・書くこと 1 四

案内文を書く(美術展のちらし)

【数学】

- ・データの活用 5

相対度数の意味を正しく捉える

【理科】

- ・地球 1 (3)

地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断する

活用にあたって

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の問題から考えられる「授業づくり」のポイントや、指導の手だての例を掲載しています。子どもたちへの指導の参考例としてご活用ください。

活用のポイント例

自校の状況をもとに考えよう

「1. 問題の概要」を活用して

「出題の趣旨」や「学習指導要領の内容」、「評価の観点」から

「どのような力を身に付けるのか」をつかみましょう。

資質・能力

「正答の条件」や「正答例」から

「どのような姿をめざすのか」をつかみましょう。

「2. 児童・生徒の状況(解答類型抜粋)(質問紙調査)」を活用して

「解答類型」や「経年比較のグラフ」から

「どのような姿なのか」をつかみましょう。

具体的な
児童・生徒の状況

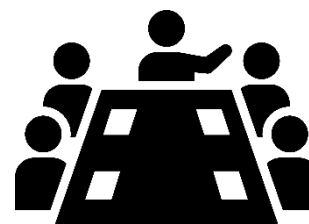
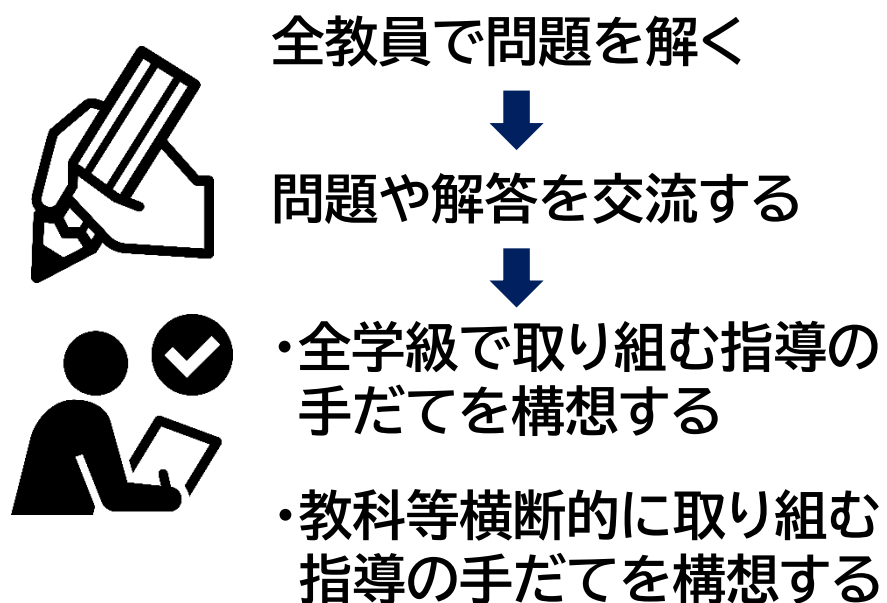
「3. 授業づくりのポイント」を活用して

「授業づくりのポイント例」から

「どのような指導ができるのか」をつかみましょう。

指導の手だて

全国学力・学習状況調査の活用例



自校の解答類型を分析する



子どもの課題を把握する



学校で取り組む重点目標を構想する



解説資料や授業アイデア例を活用した研修をする



授業アイデア例で示された指導を実際に授業で取り入れる

参考

国立教育政策研究所 「教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



【中学校国語】 案内文を書く(美術展のちらし) 1 四

1. 問題の概要

出題の趣旨

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領の内容

第1学年 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ウ

根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

評価の観点

思考・判断・表現

正答の条件

次の条件を満たして解答している

- ①【工夫】のいずれか一方と、【感想の一部】のいずれか一つを選んで、選んだ記号を塗り潰している。
- ② 選んだ【工夫】に結び付く【感想の一部】を選んでいる。
- ③ 選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を適切に取り上げて書いている。
- ④ 接続する語句や指示する語句を用いて、選んだ【工夫】と【感想の一部】とを適切に関係付けて書いている。

考えの形成・
記述

【ちらし】(更新版②)

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいしんの出来です。
今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時

令和7年11月15日(土) 10時～16時

場所

第一中学校 体育館

会場図

体験できる時間(各回30分間)

●10時～ ●11時～ ●12時～ ●13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみさんへ

今年の美術展では、昨年の美術展に来場した小学生の感を想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】(更新版②)の □の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1: 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び(どちらを選んでもかまいません。)、それと結び付く小学生の【感想の一部】をAからウまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2: 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
- B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- A どうやってあんなすばらしい作品をつくったのかわかりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。
- イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。
- ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

2. 生徒の状況 (解答類型)

	解答類型	正答(類型1)	正答率(%)
1	正答の条件①②③④を満たして解答しているもの		27.8
2	正答の条件①②③を満たし、④を満たさないで解答しているもの		6.6
3	正答の条件①②④を満たし、③を満たさないで解答しているもの		0.2
99	上記以外の解答		63.3
0	無解答		2.1

(正答例) 昨年の来場者から、どうやって作品を作ったのか知りたくなったという感想をもらいました。そこで、今年は中学生が作品について説明します。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。

(2の例) 昨年は、おみやげのペン立てを私もつくってみたいという感想をもらいました。しかし、今年は、自分でペン立てをつくる体験コーナーがあります。

(3の例) 今年の美術展では、中学生が作品について説明します。昨年参加した小学生の感想に、いろいろな作品が展示されていて楽しかったという声がありました。

3. 授業づくりのポイント



意図的、計画的に各学習過程の指導事項について指導しましょう。

書くことの領域であれば、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切です。



多様な書く活動を取り入れて指導しましょう。

他教科や学校生活と関連付けた書く活動を取り入れるなど、多様な書く活動を取り入れて指導することが大切です。また、生徒が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるよう工夫することや、読みでの反応を受け取り、自身の表現を振り返ることができるよう工夫することも大切です。



生徒の記述を、指導事項等に照らして分析的に読みましょう。

指導事項の内容や設定した条件を満たしているかという観点で、生徒の記述を分析的に読むことで正しく見取り、学習改善や授業改善に生かすことが大切です。

1. 問題の概要

出題の趣旨

不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

学習指導要領の内容 第1学年 D「データの活用」(1)データの分布 ア(ア)

ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること。(知識及び技能)

評価の観点

知識・技能

下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録

階級 (m)	度数 (人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

正答

相対度数は、度数の合計に対するそれぞれの階級の度数の割合である。

すなわち、

(相対度数) =
$$\frac{(\text{その階級の度数})}{(\text{度数の合計})}$$

と表すことができる。

20m以上25m未満の階級の度数は10人である。

また、度数の合計は40人である。

このことから、

$$10 \div 40 = 0.25 \quad \text{答え. } 0.25$$

2. 生徒の状況 (解答類型)

	解答類型	正答(類型1)	反応率(%)
1	0.25 と解答しているもの		36.5
2	10 と解答しているもの (階級の度数)		20.0
3	4 と解答しているもの (総度数を階級の度数で割った商)		6.0
4	0.75 と解答しているもの (累積相対度数)		0.6
5	30 と解答しているもの (累積度数)		6.4
6	5 と解答しているもの (階級の幅)		1.8
7	40 と解答しているもの (総度数)		0.1
8	22.5 と解答しているもの (階級値)		0.9
99	上記以外の解答		16.6
0	無解答		11.0

対象の階級の度数には着目しているものの、相対度数の意味に繋げて考えることができていない

3. 授業づくりのポイント

- ✓ 基礎的・基本的な知識及び技能の意味を正しく捉えられるようにしましょう。
単に求め方を覚えるのではなく、相対度数などの基礎的・基本的な用語が表す意味を正しく捉えられるようにすることが大切です。割合に関する内容については、小学校算数の学習内容とも関連付けながら、「比べる量」と「基にする量」との関係性を正しく理解できるようにしましょう。
- ✓ 学習したことを単元の中で活用して自分の考えを説明する学習を設定しましょう。
単元内の課題場面において、自分の考えを根拠も含めて説明する際に、単元の学習で習得した知識及び技能を活用することが大切です。子どもたちが学んだ用語を活用して、数学的に表現できるようにしましょう。
- ✓ 学年を越えて、系統性を意識して学んだことを活用する学習場面を設定しましょう。
第1学年で学んだことを第2学年の同じ領域の学習でも活用して考える学習場面の設定が大切です。特に「データの活用」領域では、データの分布の状況からわかることを、多面的に考察できるようにしましょう。

1. 問題の概要

出題の趣旨

露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる。

学習指導要領の内容 第2分野 生命・地球(2)(ア)㊦

身近な地形や地層、岩石などの観察を通して、土地の成り立ちや広がり、構成物などについて理解するとともに、観察器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。

評価の観点 思考・判断・表現

(3)下線部の水がしみ出る位置として最も適切なものを、の中から1つ選びなさい。

水道水のもとになる水について調べる

水道水はどのような水を利用していますか。

水道水は河川の水、雨水などが地層を通過してしみ出した水を利用しています。

雨水などが地層を通過してしみ出した水を調べてみたいですね。

この地域に露頭から水がしみ出ているところがあります。調べに行きましょう。

地層の境目から水がしみ出ているね。

地層の性質と関係があるのかな。それぞれの地層を観察してみよう。

ろ過の仕組みと同じように考えるとよいですね。

地層1



れきの層

大きな粒で構成され、粒と粒の間にすき間があるので、水は通り抜ける。

地層2



砂の層

小さな粒で構成され、粒と粒の間に小さなすき間が観察された。すき間はれきの層より小さいが、水は通り抜ける。

地層3



泥の層

非常に小さな粒で構成され、粒と粒の間にすき間が観察されなかったため、水は通り抜けにくい。

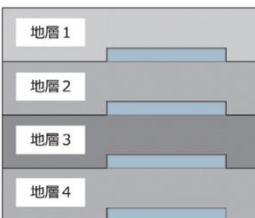
地層4



砂の層

小さな粒で構成され、粒と粒の間に小さなすき間が観察された。すき間はれきの層より小さいが、水は通り抜ける。

【地層の境目から水のしみ出ている露頭】



2. 児童の状況 (解答類型と反応率)

	解答類型	反応率(%)
1	地層1の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	24.7
2	地層2の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	33.5
3	地層3の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	28.0
4	地層4の下側にある青色の枠内を選んでいるもの	12.7
99	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.1

水が通り抜けにくい層の下側から水がしみ出ると考えていることから、水が通り抜けにくいのは地層の底面であると理解しているのではないかと考えられる。

3. 授業づくりのポイント



小学校で学習したことや生活経験とのつながりを大切にしましょう。

小学校では、砂や土のつぶの大きさと、水のしみこみ方の関係について学習しています。また、校内の地面で雨がふると水たまりがでやすい場所などに着目させることで、地層を構成する粒と水のしみ込みやすさの関係がより深く結びつくでしょう。このように、既習事項や生活経験と結び付けることで、根拠をもって思考・判断・表現できるようにすることが大切です。



直接体験を大切にしましょう。

地層を扱う際は、露頭での観察が可能であれば、実際の様子を観察することが最善ですが、露頭が観察できる場所は限られており、地域で観察できる場所がないという場合も多いと思います。そこで、砂や粘土、礫などで地層のモデルを作成し、実際に上部から水を注いだときに水がしみだす位置を確認するといった再現実験を行うことで、生徒の実感を伴った理解につなげるといった方法が有効です。小学校での同様の例としては、流れる水の働きで、実際の河川の侵食については、時間のスケールとしても観察が難しいことから、砂で斜面をつくり、そこに溝を掘って水を流す様子を観察する実験があげられます。再現実験で確かめたことを、動画や写真などを通して実際の自然の事物・現象とつなげていくことで理解を深めることが大切です。